

第5回地域連携フォーラム・シンポジウム概要

1. 主催・共催・後援

主催：文教大学大学院人間科学研究科

共催：三郷市教育委員会

後援：春日部市・越谷市教育委員会・草加市・草加市教育委員会・吉川市教育委員会

2. 日時・場所

日時：平成26年11月2日（日） 午後1時から午後4時

場所：文教大学12号館12101教室

3. テーマ

「ありのままに」をどう支えるか

ー困難を抱えた家族・家庭を支援するシステム作りー

4. 企画主旨

文部科学省の平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査によると児童虐待相談件数や、小学校における暴力行為発生件数が過去最大となったという。物質的には豊かになり、生活は便利になり、安心・安全はかなり保障されるようになったにもかかわらず、子供を産んで育てるという当たり前の営みすなわち「ありのまま」でいることが大変な印象になっている。

一方で、最も支援を必要としている人たちは自ら援助を求めるサインを示しにくいという指摘もある。支援を積極的に出前するアウトリーチの必要性も指摘され、普及しつつあるといえる。そこで本フォーラム・シンポジウムでは、実際に効果をあげている支援の取り組みを紹介し、効果的支援を可能とする条件の共有を図り、合わせて支援システム作りの要点を明らかにすることを目指している。

5. シンポジウムの構成

(1)主催者挨拶 神田 信彦（文教大学大学院人間科学研究科長）

(2)司会・企画趣旨 谷口 清（人間科学研究科・発達臨床心理学）

(3)報告

①藤原 一夫（三郷市専任教育相談員・埼玉大学）

お疲れ様、お母さん！ー改善率90%の教育相談室よりー

②関井 友子（人間科学部・家族社会学）

「止められない」からどう抜け出すかー依存症と自助グループー

③成田 奈緒子（教育学部・小児科専門医）

脳の育て直しは生活から～不登校、引きこもり、「気になる」子ども～

(4)指定討論 福田 はぎの（教育学部・家庭経済学）

(5)質疑応答・討論

(6)まとめ 谷口 清（人間科学研究科）